

# 新中学校学習指導要領(外国語科)のポイント・比較対照表

中学校では日常的な話題や社会的な話題まで広げて、考えや気持ちを伝え合う

新中学校学習指導要領 (第9節 外国語) ※一部抜粋	【参考】現行中学校学習指導要領 (第9節 外国語) ※項目のみ抜粋
<p><b>第1 目標</b></p> <p>(1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる<b>技能を身に付ける</b>ようにする。</p> <p>(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり<b>伝え合ったりすることができる力を養う</b>。</p> <p>(3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> <p><b>第2 各言語の目標及び内容等</b></p> <p>英語</p> <p><b>1 目標</b></p> <p>(1) 聞くこと <b>5領域</b></p> <p>ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。</p> <p>(2) 読むこと</p> <p>イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。</p> <p>(3) 話すこと[やり取り]</p> <p>ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。</p> <p>(4) 話すこと[発表]</p> <p>ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。</p> <p>(5) 書くこと</p> <p>ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。</p> <p><b>2 内容</b></p> <p>[知識及び技能]</p> <p>(1) 英語の特徴やきまりに関する事項</p> <p>ア 音声 イ 符号 ウ 語、連語及び慣用表現</p> <p>(ア)小学校で学習した語に<b>1600～1800語程度の新語を加えた語</b> <b>語彙</b></p> <p>エ 文、文構造及び文法事項</p> <p>(ア)文 <b>c 感嘆文のうち基本的なもの</b></p> <p>(イ)文構造</p> <p>c <b>主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語のうち</b>・ (c) <b>主語＋動詞＋間接目的語that／whatなどで始まる節</b></p> <p>d <b>主語＋動詞＋目的語＋補語のうち</b>・ (b) <b>主語＋動詞＋目的語＋原形不定詞</b></p> <p>(ウ)文法事項 e 動詞の時制及び相など <b>・現在完了進行形</b>・ k <b>仮定法のうち基本的なもの</b></p> <p>[思考力、判断力、表現力等]</p> <p>(2)情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項</p> <p><b>具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に表現することを通して、</b></p> <p>(3)言語活動及び言語の働きに関する事項 <b>5領域</b></p> <p>①言語活動に関する事項 ア 小学校における学習内容の定着を図るために・ イ 聞くこと ウ 読むこと</p> <p>エ 話すこと[やり取り] オ 話すこと[発表] カ 書くこと</p> <p>②言語の働きに関する事項</p> <p><b>3 指導計画の作成と内容の取扱い</b></p> <p>(1)ウ 小学校第3学年から第6学年までに扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を<b>繰り返し指導し</b></p> <p><b>定着を図ること。</b> <b>受容と発信</b></p> <p>エ <b>生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにすること。</b></p> <p>(2)ア <b>・生徒の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意すること。</b> <b>教科書改善</b></p> <p>エ (ウ) 用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮・</p> <p>(3)ア 教材は<b>・1に示す五つの領域別の目標と2に示す内容との関係について</b>・各教材の中で明確に示す・ その他の外国語</p> <p><b>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</b></p>	<p><b>【参考】現行中学校学習指導要領 (第9節 外国語) ※項目のみ抜粋</b></p> <p><b>第1 目標</b></p> <p>外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。</p> <p><b>第2 各言語の目標及び内容等</b></p> <p>英語</p> <p><b>1 目標</b></p> <p>(1)(聞くこと) (2)(話すこと) (3)(読むこと) (4)(書くこと)</p> <p><b>2 内容</b></p> <p>(1)言語活動</p> <p>ア 聞くこと イ 話すこと ウ 読むこと エ 書くこと</p> <p>(2)言語活動の取扱い</p> <p>(3)言語材料</p> <p>ア 音声 イ 文字及び符号 ウ 語、連語及び慣用表現 エ 文法事項</p> <p>(4)言語材料の取扱い</p> <p><b>3 指導計画の作成と内容の取扱い</b></p> <p>その他の外国語</p> <p><b>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</b></p> <p><b>新たに追加される事項(例)</b></p> <p><b>(1) 英語の特徴やきまりに関する事項</b></p> <p>①既に現行の外国語活動(小学校)や外国語科(中学校)で使っている／慣れ親しんでいる表現に関する言語材料</p> <p>例) 感嘆文(How・・・!, What a・・・!)</p> <p>主語＋動詞＋目的語＋補語のうち、補語が原型不定詞 (Let me try.など)</p> <p>②実際の授業において本来の表現が使えないため「代用」で対応しており、より適切な表現を用いた言語活動のために必要な言語材料</p> <p>例) 現在完了進行形(I have been -ing .. since・・・)</p> <p>仮定法のうち基本的なもの(If I had・・・, I would・・・)</p> <p>③言語活動における表現をより豊かにするための言語材料</p> <p>例) 主語＋動詞＋間接目的語+thatなどで始まる (I told you that he was going to・・・)</p> <p><b>(2) 言語活動及び言語の働きに関する事項</b></p> <p>○①～③の言語材料を活用した言語活動</p> <p>○言語活動で追加した例</p> <p>・「書くこと」(イ) 簡単な手紙や電子メールの形で自分の近況などを伝える活動</p> <p>・「話すこと[やり取り]」(ア) 相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続するかる活動</p> <p>・言語の働きの例に、「仮定する」を追加</p> <p><b>日常的な話題・社会的な話題に関するコミュニケーションにおいて、生徒が自分の考えや気持ちを表す表現をより豊かにするため、新たに追加。</b></p>
<p>※時数は現行と同様年間140単位時間程度。</p>	